

いごいのみぎわ 天路歷程 ジョン・バニヤン

第2話

2021年11月28日～12月4日 各家庭でのディボーション用テキスト

近所の人々もまた彼が走るのを見に出てきた。そして彼が走ると、ある者はあざけり【エレ20：10】、ある者はおびやかし、またある者はうしろから引きかえせと叫んだ。そうした者の中に、力づくで彼を連れもどそうと決心した二人の者があった。一人の名は強情者で、今一人の名は柔順者であった。さてこの時には男は二人からかなり離れていた。とは言え、彼らは追いかけようと決心し、そのとおりにして間もなく彼に追いついた。そのとき男は言った、ご近所の方々、何のためにお出でになられたのですか。二人は言った、いっしょに戻るようあなたに説きつけるためです。しかし彼は言った、それは決してできません。あなた方は滅亡の都に住んでおられるが（そこは私の生まれた所でもあります）、そこが滅亡することが私には分かったのです。あなた方は間もなくそこで死んで、墓よりもっと下に沈み、火と硫黄の燃えている所に入らっしゃう。あなた方も賛成なさって私といっしょに行きましょう。



基督者滅亡の都より逃れ出る

強情者 何だって、友だちと楽しみを後に残してかね。

基督者（これがその男の名であった） そうです。あなた方が見捨てるすべての物は、私が受けようと求めている物の僅かと比べる価値もない【Ⅱコリ4：18】からです。もしあなた方がいっしょに行つてそれを得たなら、私と同じ暮しができるでしょう。私の行く所にはあり余るほどあるからです【ルカ15：17】。出かけて私の言葉の真偽を試しなさい。

強情者 この世のものをいっさい捨てて見つけようとは、君の探すものは何だろう。

基督者 私の探すものは、朽ちず汚れず【Ⅰペテ1：4】、しぼむことのない資産で、それは天にたくわえてあつて安全であり【ヘブ11：16】、定められた時に、力を尽してそれを求める者に与えられるのです。お望みなら、私の書物でそのとおりにお読みなさい。

強情者 ちえっ、君の書物なんかすててしまいなさい。われわれといっしょに帰るか、それともいやか。

基督者 いや、私は帰りません。手をすきにつけてしまった【ルカ9：62】のです

から。

強情者 それじゃ柔順者君、われわれは回れ右して、あの人をおいてうちに帰りましょうや。頭の狂ったこんなまぬけ連中が何か思いつきのはしをつかまえると、よく答える七人よりも自分の目には賢く見えるものだ。

柔順者 悪口はよみましょう。もし基督者さんの言うことが本当だとしたら、その求めているものは私どものよりよいものです。私の心はあの人といっしょに行きたくなりしました。

強情者 何だって。またもやばか者が増えたというのか。私の言うことを聞いて帰りなさい。こんな気違い野郎がどこへ引張って行くかわかったものじゃない。帰りなさい。帰りなさい。そして賢くなりなさい。

基督者 柔順者さん、私といっしょにお出でなさい。私かお話したようなものや、ほかにもっと多くのすばらしいものがある、手に入ります。もし私の言うことを信じないなら、この書物のここを読んでごらんください。ここに書いてあることの真理については、実に、それを作られた方の血【ヘブ13:20、21】によってすべてが確かめられているのです。

柔順者 さて強情者さん、私はいよいよ心を決める段になりました。私はこの方といっしょに行って運命を共にしたいと思います。ところでお連れの方、あなたはこの望みの場所に行く道をご存じですか。

基督者 私は前方の小さな門に急いで行って、そこでこの道について教えを受けるようにと、伝道者という名の方に教えられています。

柔順者 それではあなた、ごいっしょに出かけましょう。

そこで二人は連れ立って出かけた。

強情者 わしはもとの所に帰ろう。あんな迷った気まぐれな奴らの仲間にはなるまい。

さて、私は夢で見ていると、強情者が帰ってしまうと、基督者と柔順者とが話しながら野原を越えて行った。こんなふうには二人は話を始めた。

基督者 さあ柔順者さん、どうです、ご気分は。あなたが私と同行することを承諾されて私はうれしいですよ。まだ見えないものの力と恐ろしさを私か感じたように、強情者自身が感じさえしたら、こんなに軽々しく私たちに背を向けることはなかったでしょうになあ。

柔順者 さあ基督者さん、ここには二人のほかだれもいないのですから、今からもっと話して下さい。その物というのはどんなものか、どういうふうにしてそれを受けか、私たちはどこへ行こうとしているのかを。

【ジョン・バニヤン 天路歷程 正篇 より】

※この本は図書に置かれています。さらに読みたい方はどうぞご利用下さい。